ゼミノート #10

Topology and Shaves on Algebraic Stacks

七条彰紀

2019年7月21日

目次

1 Points of Artin Stack 1 2 3 Zariski Topology of Artin Stack 2.1 3 2.2 2.3 Sheaves on Algebraic Stacks 6 3.1 6 3.2

ここまでで artin stack が定義できたが、これは scheme で言えば structure sheaf だけ定義したような状態である. artin stack の Zariski 位相空間と、(Grothendieck topology 上の) sheaf を導入する.

1 Points of Artin Stack

いずれも [3] Tag 04XE, [2] section 5. を参照せよ.

定義 **1.1** ([2] section 5)

体の Spec からの射 x_1 : Spec $k_1 \to \mathcal{X}, x_2$: Spec $k_2 \to \mathcal{X}$ について $x_1 \sim x_2$ であるとは,ある k_{12} :: field と以下の 2-可換図式が存在すること.

$$\operatorname{Spec} k_{12} \longrightarrow \operatorname{Spec} k_{1}$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow^{x_{1}}$$

$$\operatorname{Spec} k_{2} \xrightarrow{x_{2}} \mathcal{X}$$

命題 1.2 ([3] 04XF)

ここで定義した~は同値関係である.

(証明). ~ は反射律,対称律を満たすことは自明なので,推移律の成立を示す.

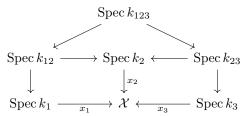
体から \mathcal{X} への 3 つの射 :: x_1, x_2, x_3 を考える.これらが $x_1 \sim x_2, x_2 \sim x_3$ を同時に満たすとは,体 k_{12}, k_{23} と次の 2-可換図式が存在するということである.

$$\operatorname{Spec} k_{12} \longrightarrow \operatorname{Spec} k_2 \longleftarrow \operatorname{Spec} k_{23}$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow^{x_2} \qquad \qquad \downarrow$$

$$\operatorname{Spec} k_1 \longrightarrow \mathcal{X} \longleftarrow \xrightarrow{x_3} \operatorname{Spec} k_3$$

この時, k_{12} , k_{23} の合成体(すなわち最小の共通の拡大体)を k_{123} とする. $k_{12} \cap k_{23}$ は k_{123} の部分体として k_2 に一致する(あるいは,一致するように 2 つの準同型 k_{12} , $k_{23} \to k_{123}$ を選ぶ).すると可換図式は次のように拡張される.



上の新たな四辺形は scheme の図式として可換なので、この artin stack の拡張後の図式も可換.

注意 1.3

以上の定義は scheme の点に対応している. scheme :: X について,体の Spec :: Spec k から X への射は点 $x \in X$ と体の準同型 :: $\phi: \kappa(x) \to k$ に対応する ([1] ch II, Ex2.7, [3] 01J5). ここで $\kappa(x)$ は residue field である. したがって一点 x に対応する射は $\kappa(x)$ から体への準同型の数だけ有る. これらを全て同値なものとする同値関係を定めたい.

体から X への二つの射

$$x_1: \operatorname{Spec} k_1 \to \mathcal{X}, \quad x_2: \operatorname{Spec} k_2 \to \mathcal{X}$$

について,以下は同値.

- (a) 位相空間の 2 つの写像 $|x_1|, |x_2|$ の像が x である.
- (b) すなわち、体 k_{12} と次の可換図式が存在する.

(a) \Longrightarrow (b) は明らか. (a) \Longleftrightarrow (b) は次のように示す。まず k_{12} は合成体 k_1k_2 と置けば良い。すると包含射 $k_1 \hookrightarrow k_{12}, k_2 \hookrightarrow k_{12}$ が存在する。体の準同型は単射しか無いから, x_1, x_2 からそれぞれ得られる $\kappa(x) \to k_1, \kappa(x) \to k_2$ は包含射に取り替えられる。包含関係は推移律を満たすから,以下が可換ということに成る。

$$k_{12} \longleftrightarrow k_1$$

$$\uparrow \qquad \qquad \uparrow$$

$$k_2 \longleftrightarrow \kappa(x)$$

上で述べた、体から X への射と $\kappa(x)$ から体への射の対応より、これは (b) の可換図式が存在することを意味する.

定義 1.4 ($|\mathcal{X}|$, |f|, [3] 04XG and the below paragraph)

points of \mathcal{X} とは、field の Spec から \mathcal{X} の射の、 \sim による同値類のことである。set of points of \mathcal{X} を $|\mathcal{X}|$ と表す。すなわち、

$$|\mathcal{X}| = \{ \operatorname{Spec} k \to \mathcal{X} \mid k :: \text{ algebraically closed field } \} / \sim.$$

射 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について, |f| を次で定義する.

$$|f| \colon |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$$

$$x \mapsto f \circ x$$

2 Zariski Topology of Artin Stack

2.1 Atlases of Artin Stacks

下準備として artin stack の atlas について幾つか命題を述べる.最初は読み飛ばして構わない.

補題 2.1

任意の artin stack は atlas by a scheme, すなわち scheme からの smooth surjective 射を持つ.

(証明). この証明では "smooth surjective"を "sm.surj.", "etale surjective"を "et.surj."と略す. artin stack と algebraic space の定義より,

- algebraic space から artin stack への sm.surj. 射 :: α : $X \to \mathcal{X}$,
- scheme から algebraic space への et.surj. 射 :: $a: U \to X$

が存在する. 合成すれば scheme から artin stack への sm.surj. 射 :: $\alpha \circ a$: $U \to \mathcal{X}$ が得られる.

 α と a ではそれぞれ "smooth surjective","etale surjective"の定義の方法が異なるので,射 $\alpha \circ a$ が sm.surj. であることは調べる必要が有る. scheme からの sm.surj. 射 :: $V \to \mathcal{X}$ をとり,以下の pullback 図 式を考える.

$$\begin{array}{ccc} U \times_{\mathcal{X}} V & \longrightarrow & U \\ \downarrow & & \downarrow^{a} \\ X \times_{\mathcal{X}} V & \longrightarrow & X \\ \downarrow & & \downarrow^{\alpha} \\ V & \longrightarrow & \mathcal{X} \end{array}$$

この図式から次の3つが分かる.

- $V \to \mathcal{X}$ は scheme からの sm. surj. 射,
- $a: U \to X$ が sm. surj. なので $U \times V \to X \times V$ も sm. surj.,
- $\alpha: X \to \mathcal{X}$ も sm. surj. 射.

artin stack の射の性質の定義 (α が sm. surj. であることの定義) から, $U \times V \to X \times V \to V$ は sm. surj. two pullback lemma も合わせて考えれば, これは $\alpha \circ a$:: sm. surj. を意味する.

補題 2.2 ([3] tag 04T1)

artin stack :: \mathcal{X} , \mathcal{Y} と \mathcal{Y} の atlas :: $V \to \mathcal{Y}$ をとる. morphism of artin stacks :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ に対して, \mathcal{X} の atlas :: $U \to \mathcal{X}$ と atlas の間の射 :: $\bar{f}: U \to V$ が存在し、以下が可換図式となる.

$$\begin{array}{ccc}
\exists U & \stackrel{\exists \bar{f}}{\longrightarrow} \forall V \\
\downarrow & & \downarrow \\
\mathcal{X} & \stackrel{\forall f}{\longrightarrow} \mathcal{Y}
\end{array}$$

scheme の射の性質 P を, smooth surjective morphism による composition と base change で保たれるものとする. †1 f が性質 P を持つならば \bar{f} も性質 P を持つ.

(証明). atlas of \mathcal{X} :: $U \to \mathcal{X}$ を適当にとり、次の fiber product をとる.

$$\begin{array}{cccc} U \times_{\mathcal{Y}} V & \longrightarrow & V \\ \downarrow & & \downarrow \\ U & \longrightarrow & \mathcal{X} & \xrightarrow{f} & \mathcal{Y} \end{array}$$

artin stack の定義から $U \times_{\mathcal{Y}} V$:: alg. sp. である. また smooth, surjective は stable under base change/composition なので $U \times_{\mathcal{Y}} V \to U \to \mathcal{X}$ は smooth surjective. よって $\bar{V} = U \times_{\mathcal{Y}} V, \bar{f} = \mathrm{pr}$: $U \times_{\mathcal{Y}} V \to V$ と置けばこれらが主張の条件を満たす. また,この証明から最後の段落の主張は明らかである.

2.2 Definitions.

定義 2.3 (Zariski Topology on Points of Scheme/Algebraic Space/Artin Stack)

- (i) scheme :: X とする. |X| の (Zariski) open subset とは、ある open subscheme of X :: $i:U\to X$ に よって |i|(|U|) とかける集合のこと.
- (ii) algebraic space :: X とし、A が scheme である atlas :: $a: A \to X$ をとる、 $U \subseteq |X|$ が (Zariski) open subset であるとは、 $|a|^{-1}(U)$ が |A| の open subset であること.
- (iii) artin stactk :: \mathcal{X} とし、A が scheme である atlas :: $a: A \to \mathcal{X}$ をとる、 $U \subseteq |\mathcal{X}|$ が (Zariski) open subset であるとは、 $|a|^{-1}(U)$ が |A| の open subset であること.

定義 2.4

P を位相空間の性質 (e.g. irreducible, connected, quasi-compact, ...) とする. artin stack :: $|\mathcal{X}|$ が P であるとは, $|\mathcal{X}|$ が P であるということ.

Q を位相空間の射の性質 (e.g. open, closed, dense, ...) とする. artin stack の射 :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が Q であるとは,|f| が Q であるということ.

補題 2.5

X :: scheme について,|X| は X の台位相空間と一致する. さらに scheme の射 :: f : $X \to Y$ について,|f| は X と Y の間の台位相空間の射と一致する.

^{†1} 例えば P = smooth, surjective, flat, locally finite presentation, universally open. [3] tag 01V4.

(証明). 注意 (1.3) より明らか.

補題 2.6

artin stactk :: \mathcal{X} について、 $|\mathcal{X}|$ の Zariski topology は atlas に関わらず一意である.

(証明). scheme から \mathcal{X} への smooth surjective morphism を二つとり、それらの fiber product を作る.

$$W \longrightarrow U$$

$$\downarrow \text{ p.b. } \downarrow u$$

$$V \longrightarrow \mathcal{X}$$

artin stack の定義から、W:: scheme. また smooth ならば universally open である ([3] 04XL) から、 $W \to U, W \to V$ は continuous, surjective, open. よって集合の間の射 $|W| \to |U|, |W| \to |V|$ も continuous, surjective, open.

なので以上の可換図式をたどれば、任意の $O\subseteq |\mathcal{X}|$ について、 $|u|^{-1}(O)\subseteq |U|$ が open であることと $|v|^{-1}(O)\subseteq |V|$ が open であることが同値であると分かる.これは $|\mathcal{X}|$ の Zariski topology は atlas に関わらず一意であることを意味する.

2.3 Propositions

命題 2.7 ([3] 04XL)

- (i) artin stack 間の任意の射 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について, $|f|: |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$ は continuous.
- (ii) algebraic space からの universally open 射 :: $f: U \to \mathcal{X}$ に対して、|f| は continuous かつ open.

なお, smooth 射は flat and locally of finite presentation 射であり、したがって universally open である ([3] tag 01VE, 01VF, 01UA).

(証明). (i) は補題 (2.2) を用いれば容易に分かる.

2.3.1 Surjectivity.

補題 2.8

任意の artin stack :: $\mathcal{X}, \mathcal{Y}, \mathcal{Z}$ について,

$$|\mathcal{Z} \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}| \to |\mathcal{Z}| \times_{|\mathcal{V}|} |\mathcal{X}|$$

は全射である.

補題 2.9

 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ が全射であることと, $|f|: |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$ が全射であることは同値である.

2.3.2 Open sub-stack maps to open subset bijectively.

注意 2.10

artin stack の射にも "open immersion"であるものは存在するのだから、これを用いても open morphism な

どの概念が定義できる. この流儀での open morphism 等の概念と、我々の points of artin stack :: $|\mathcal{X}|$ を使う流儀での open morphism 等の概念は同値なものである、ということを次の命題 (2.13) で示す.

points of artin stack を使うと、台集合を $|\mathcal{X}|$ とする、通常の意味での位相空間が定義できる。その為、位相空間に関する概念を全て取り扱うことが出来る、というのが我々の流儀のアドバンテージである。

定義 2.11 ([3] 04YM)

artin stack :: \mathcal{X} の open sub-stack とは、 \mathcal{X} の **strictly full** sub-category :: $\mathcal{U}^{\dagger 2}$ で artin stack であるもの であってかつ \mathcal{X} への inclusion :: $\mathcal{U} \to \mathcal{X}$ が open immersion であるもの.closed sub-stack も同様である.

注意 2.12

equivalence of artin stacks :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ があっても、open sub-stack of \mathcal{X} の f による像が strictly full sub-category であるとは限らないことに注意.

命題 2.13 ([3] 06FJ, [2] Cor5.6.1)

- (i) \mathcal{U} \mathcal{V} open sub-stack of \mathcal{X} \mathcal{V} \mathcal{V} \mathcal{V} \mathcal{V} \mathcal{V} \mathcal{V} open sub-set.
- (ii) open sub-stack of \mathcal{X} の集まりからの対応 $\mathcal{U} \mapsto |\mathcal{U}|$ は一対一.

これらは closed についても同様である.

(証明). (TODO)

2.3.3 Topological Property of $|\mathcal{X}|$.

命題 **2.14** ([2] 5.6.1(iii), 5.7.2)

atrin stack :: \mathcal{X} を考える. 位相空間 $|\mathcal{X}|$ について次が成り立つ.

- (i) $|\mathcal{X}|$:: quasi-compact.
- (ii) $|\mathcal{X}|$:: sober (すなわち, 任意の irreducible component はただ一つの generic point を持つ.)

命題 2.15 ([2] 5.7)

artin stack \mathcal{O} quasi-compact 射 :: $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について, $|f|(\mathcal{X})$:: stable under specialization.

3 Sheaves on Algebraic Stacks

3.1 Definitions

artin stack over S :: \mathcal{X} について、scheme からなる big etale site :: $\mathrm{ET}(\mathcal{X}) = (\mathbf{Sch}/\mathcal{X})_{\mathrm{ET}}$ を我々は考える. $\mathrm{ET}(\mathcal{X})$ の sheaf と topos は通常と同様に定義する.

注意 3.1

歴史的には smooth morphism を underlying category にとり etale topology を備え付ける site, lisse-etale site が使われている. これは etale cohomology の点で有利だが、artin stack の射から誘導される functor ::

 $[\]dagger^2$ すなわち U は \mathcal{X} の全ての対象と同型射を含んでいる.

 f^*, f^{-1}, f_* などが exact で無いといった不満点が有る. このせいで sheaves on scheme の時のアナロジーも働かなくなる. 定義も少々面倒なので、我々は big etale site を使う.

定義 3.2

site :: S 上の sheaf :: F について, set of global sections を以下で定める.

$$\Gamma(\mathcal{S}, \mathcal{F}) = \operatorname{Hom}_{\mathbf{Sh}(\mathcal{S})}(*, \mathcal{F}).$$

ただし*は category of sheaves of sets :: $\mathbf{Sh}(\mathcal{S})$ の terminal object である.

scheme :: U について, $\Gamma(U, \mathcal{F})$ と $\mathcal{F}(U)$ は異なるものであることに注意せよ.

注意 3.3

category of sheaves of sets の terminal object は、単元集合の constact sheaf である. したがって terminal object として特に単元集合 $\{*\}$ の constant sheaf をとると、 $s \in \Gamma(\mathcal{F})$ は

$$S \ni U \mapsto s_U(*) \in \mathcal{F}(U)$$

という対応を成す. S は scheme 上の site であれば, $\Gamma(\mathcal{F})$ の元が自然な方法で global section に一対一対応 する.

定義 **3.4** ([3] 06TU)

 \mathcal{X} の structure sheaf :: $\mathcal{O}_{\mathcal{X}}$ を次で定める.

$$\mathrm{ET}(\mathcal{X})\ni U\mapsto \mathcal{O}_U(U).$$

 \mathcal{O}_U it scheme :: $U \circ \mathcal{O}$ structure sheaf \mathcal{C} \mathfrak{d} \mathcal{S} .

 $\mathcal{O}_{\mathcal{X}}$ が確かに sheaf であることは [3] 03DT で証明されている.

定義 **3.5** (u^p , pu in [3] 00VC, 00XF)

artin stack over a scheme S :: \mathcal{X},\mathcal{Y} の間の射 :: $f:\mathcal{X}\to\mathcal{Y}$ を考える. この f から topos の間の射 :: $\mathcal{X}_{\mathrm{ET}}\to\mathcal{Y}_{\mathrm{ET}}$ が誘導される.

まず sheaf :: $G \in \mathcal{Y}_{ET}$ について,

$$(f^{-1}\mathcal{G})((U,u)) = \mathcal{G}((U,f \circ u)) \text{ where } (U,u) \in \mathrm{ET}(\mathcal{X})$$

で $f^{-1}\mathcal{G} \in \mathcal{X}_{ET}$ を定める. 同じく, sheaf :: $\mathcal{F} \in \mathcal{X}_{ET}$ について,

$$(f_*\mathcal{F})((V,v)) = \lim \left(I_{(V,v)}^{\text{op}} \xrightarrow{\text{pr}_2} \mathbf{Sch}/V \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Sets}\right) \text{ where } (V,v) \in \mathrm{ET}(\mathcal{Y})$$

で $f_*\mathcal{F} \in \mathcal{Y}_{\mathrm{ET}}$ を定める.

ここで $I_{(V,v)}$ は次の圏である.

Objects: 以下の可換図式を満たす射の組 $(U \to \mathcal{X}, U \to V)$:

$$\begin{array}{c} U \longrightarrow V \\ \downarrow & \downarrow^v \\ \mathcal{X} \xrightarrow{f} \mathcal{Y} \end{array}$$

Arrows: 射 $(U \to \mathcal{X}, U \to V) \to (U' \to \mathcal{X}, U' \to V)$ は,以下を可換にする射 $U \to U'$ である.

 $(f_*\mathcal{G})(\ (V,v)\)$ の定義に有る $I^{\mathrm{op}}_{(V,v)} \xrightarrow{\mathrm{pr}_2} \mathbf{Sch}/V$ は

$$(U \to \mathcal{X}, U \to V) \mapsto [U \to V] \in \mathbf{Sch}/V$$

で与えられる.

3.2 Propositions

補題 3.6 ([3] 06NW)

artin stack :: \mathcal{X}, \mathcal{Y} と $\mathcal{F} \in \mathrm{ET}(\mathcal{X}), \mathcal{G} \in \mathrm{ET}(\mathcal{Y})$ をとる. 任意の射 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ について $f^{-1}\mathcal{F}, f_*\mathcal{G}$ は確かに sheaf である.

命題 3.7 ([3] 00XF)

 f^{-1} if f_* \mathcal{O} left adjoint functor \mathcal{C} \mathfrak{d} 3.

(証明). $(f\circ)$: $(\mathbf{Sch}/\mathcal{X}) \to (\mathbf{Sch}/\mathcal{Y})$ を $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$ の合成で得られる関手とする. すると関手 f^{-1} は関手 (\mathbf{sheaf}) $(\mathbf{Sch}/\mathcal{Y}) \to \mathbf{Sets}$ と $(f\circ)$ の合成としてかける.

これを用いると上の定義は次のように変形できる.

$$(f_*\mathcal{F})(\ (V,v)\) = \lim \Big(((f\circ)\downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\pi_1} (\mathbf{Sch}/\mathcal{Y}) \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Sets}\Big)$$

 $((f\circ)\downarrow(V,v))^{\mathrm{op}}_{\mathrm{et}}$ は圏 $(f\circ)\downarrow(V,v)$ の双対圏に etale Grothendieck topology を与えてできる site である. また $\pi_1\colon [(f\circ)(\ (U,u)\)\to (V,v)]\mapsto (U,u)$.

右辺は各点右 Kan 拡張 $(Ran_{(fo)}\mathcal{F})((V,v))$ なので,Kan 拡張の一般論により随伴性が分かる.

命題 3.8 ([3] 06WS)

artin stack over a scheme $S::\mathcal{X},\mathcal{Y}$ を考える. 射 $::f:\mathcal{X}\to\mathcal{Y}$ と sheaf $::\mathcal{F}\in\mathcal{X}_{\mathrm{ET}}$ について,

$$(f_*\mathcal{F})((V,v)) = \Gamma(\mathrm{ET}(V \times_{y,\mathcal{Y},f} \mathcal{X}), \mathrm{pr}_2^{-1} \mathcal{F}).$$

ただし pr_2 : $V \times_{y,\mathcal{Y},f} \mathcal{X} \to \mathcal{X}$ は射影である.

(証明).一般的な次の命題を用いる.証明は省略する.

補題 3.9 (https://ncatlab.org/nlab/show/limit#limit_of_a_setvalued_functor)

site :: \mathcal{S} 上の set-value sheaf :: \mathcal{F} を考える. この時,

$$\lim \big(\mathcal{S}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Sets}\big) = \Gamma(\mathcal{S}, \mathcal{F}).$$

今,一つ前の命題と合わせて

$$(f_*\mathcal{F})(\ (V,v)\) = \lim \left(((f \circ) \downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\mathcal{F} \circ \pi_1} \mathbf{Sets} \right) = \Gamma(((f \circ) \downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}, \mathcal{F} \circ \pi_1).$$

なので $((f \circ) \downarrow (V, v))_{\text{et}}^{\text{op}} = \text{ET}(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$ と $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \text{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$ を確かめれば良い.

 $\blacksquare ((f \circ) \downarrow (V, v))_{\text{et}}^{\text{op}} = \text{ET}(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$. ET や op の部分は単に site として必要な部分なので,

$$(f \circ) \downarrow (V, v) = \mathbf{Sch}/(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$$

を示せば十分. 2-Yoneda embedding を用いて証明する.

対象から見ていく. 図式

$$\begin{array}{ccc}
U \longrightarrow V \\
\downarrow & \downarrow v \\
\mathcal{X} \longrightarrow \mathcal{Y}
\end{array}$$

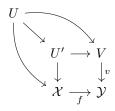
を図式 (*) と呼ぶことにする. 圏 $(f \circ) \downarrow (V, v)$ の対象は

- 射 $U \to \mathcal{X} \xrightarrow{f} \mathcal{Y}$ と,
- 図式 (*) を 2-可換にする射 $U \rightarrow V$

の組である. 一方, $V \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}$ の対象 (U, x, y, α) の対象は 2-Yoneda embedding によって次のように対応する:

- $U \in \mathbf{Sch}/S$ がそのまま scheme :: U に,
- $x \in (\mathbf{Sch}/V)(U)$ が射 $U \to V$ に,
- $y \in \mathcal{X}(U)$ が射 $U \to \mathcal{X}$ に,
- $\alpha: v(x) \xrightarrow{\cong} f(y)$ の存在が図式 (*) の 2-可換性に対応する.

射についても見ていく。 圏 $(f \circ) \downarrow (V, v)$ の射 $(U \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}, U \to V) \to (U' \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}, U' \to V)$ は,以下(の特に U を頂点とする二つの三角形)を 1-可換にする射 $U \to U'$ である.



 $V \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}$ の対象の射

$$(U \to U', \phi_V : x \to x', \phi_{\mathcal{X}} : y \to y')$$

は, それぞれ

- $U \rightarrow U'$ はそのまま $U \rightarrow U'$ に,
- $\phi_V: x \to x'$ は U, U', V の可換な三角形に,
- $\phi_{\mathcal{X}}: y \to y'$ は U, U', V の可換な三角形に

対応する. これらの射が満たす条件は、二つの三角形の可換性と右下の四角形の 2-可換性とが整合的であることを意味している.

以上より, 所望の圏同値が得られた.

■ $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$. $\pi_1 \colon (f \circ) \downarrow (V, v) \to (\operatorname{\mathbf{Sch}}/\mathcal{X}), \operatorname{pr}_2 \colon V \times_{\mathcal{Y}} \mathcal{X} \to \mathcal{X}$ はそれぞれ次のように定義されている.

$$\pi_1 \colon [(f \circ)(\ (U, u)\) \to (V, v)] \mapsto (U, u \colon U \to \mathcal{X}), \quad \operatorname{pr}_2 \colon (U, x, y, \alpha) \mapsto y \colon U \to \mathcal{X}$$

よって $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \mathcal{F} \circ \operatorname{pr}_2 = \operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$. な, $\mathcal{F} \circ \pi_1$ は関手の合成, $\operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$ は関手 pr_2^{-1} による像であるが,結局同じものである.

注意 3.10

lisse-etale site を採用する場合は, f^{-1} は colimit として定義される ([2] section 12.5). これは [3] 00XF における u_p であるが, f_* と adjoint ではない(f^{-1} \dashv f_* は上で述べた).

参考文献

- [1] Robin Hartshorne. Algebraic Geometry (Graduate Texts in Mathematics. 52). Springer, 1st ed. 1977. corr. 8th printing 1997 edition, 4 1997.
- [2] G. Laumon and L. Moret-Bailly. *Champs algébriques*. Ergebnisse der Mathematik und ihrer Grenzgebiete. 3. Folge (A Series of Modern Surveys in Mathematics). Springer Berlin Heidelberg, 1999.
- [3] The Stacks Project Authors. Stacks Project. https://stacks.math.columbia.edu, 2019.